

NEWS LETTER

銀座街づくり会議・銀座デザイン協議会
www.ginza-machidukuri.jp

〒104-0061 中央区銀座4-6-1 銀座三和ビル3F

Tel: 03.3567.1535 / Fax: 03.3563.0236 / E-mail: info@ginza-machidukuri.jp

*このNewsLetterは、全銀座会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています*許可なく無断で複写・複製および転用・転載することを禁じます*

122
2022-01-05

銀座街づくり会議・銀座デザイン協議会 「銀座デザインルール」第3版 発行記念シンポジウム
世界と銀座 「街」の未来を共創する — これからも「街」はあり続けられるか？

【Part1：Real? リアルな都市空間としての銀座の「街」を問い直す】開催報告

さまざまな活動がデジタルの世界に取って代わられる今、対面による商売というリアルな都市空間を魅力としてきた銀座の強みが揺らいでいます。こうした状況でどのように銀座らしさを継承し、街の個性を育てていくか。さらに、商売や物を所有することと関係し

てきた「豊かさ」に対する価値観の変化に銀座はどう対応していくのか。銀座街づくり会議では、銀座の根源的な課題を共有したうえで、世界に視野を広げて議論を展開する3回シリーズのシンポジウムを企画し、10月20日にPart1を開催しました。

バルセロナから学ぶアーバン・サイエンスの可能性

都市・建築分野においてビッグデータやAIの活用を研究されている東京大学准教授の吉村有司先生は基調講演で、これからは歩行者中心の街づくりが進むと推察したうえで、街の現状把握にはテクノロジーの活用が有効であると語ります。テクノロジーというと、エネルギーやインフラなどであったり、それそのものが目的化しがちですが、本来は人の営みを助ける身近な存在なのです。様々なテクノロジーを街づくりに取り入れているバルセロナでは、市民の合意形成にも「Decidim（参加型合意形成プラットフォーム）」というデジタル技術が活用されています。新たな技術は市民参加を促し、街という共有資産をみんなで作るという民主主義の基礎も支えているのです。

ドイツの都市政策と今の状況

商業を軸に都市政策を進めてきたドイツでは、ネットショッピングが普及し始めた約20年前から来街者が徐々に減少しています。商店を中心ににぎわう「街」というリアルな場には今後、何が求められるのでしょうか。アーヘン工科大学准教授のヤン・ポリフカ先生は、ドイツで行われた調査結果をもとに、魅力的な空間や特別な体験を提供する質の高い商店に加えて、居心地の良い公共空間や美しい街並み、個性的なレストランなど、街を形作る多様な要素の混在とその充実が人々を惹きつけると語ります。さらに、街はmixed（混合）とmerge（融合）であること、つまり商店だけで物事を考えるのではなく、街に関わる多様な人々がステークホルダーとして一緒に、かつプラットフォームに議論することが重要だと指摘しました。

リアルな都市空間としての銀座の「街」を問い直す

小林博人先生（慶應義塾大学教授）、石山さつき先生（日仏都市研究者）、東條幹雄街づくり委員長を交えたパネルディスカッションの進行は中島直人先生（東京大学准教授）。初めに中島先生から、シンポジウムの主旨とPart1の位置付けが説明されました。

ECへの移行やコロナ禍によってもものを買う行為の選択肢が広がり、銀座への来街者は減少しています。それでも銀座ならではの体験やものごとを更新して発信してゆくことが大切であること、そして長く銀座に残していくものをみんなで話し合いながら一緒に考えていきたいと東條さんは語ります。

通りや建物、店舗などの街をつくる要素の境界は明確に線引きされていますが、それぞれ公共的な側面も持ち合わせています。建築や広告のデザイン協議は、立場や価値観を超えて、銀座という公共的な財産をどう一緒に育てていくかを考え続ける行為です。今年度からアドバイザーとしてすべての協議に関わる石山先生は、デザイン協議にテクノロジーを活用することは、リアルの対話にも新しい関係をもたらすのではないかと期待を寄せられました。最後に小林先生は、街で人と人が出会うことのよろこびや、その人のサービスを直接受けられるという銀座が大切にしてきた価値はなくならないし、なくすべきではないこと、そしてテクノロジーがオープンな対話や協議の助けになるのではないかと締めくくりました。

*シンポジウムのアーカイブ動画 (youtube) は
街づくり会議のWEBサイトからご覧いただけます。